

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：教務部	担当部局：教務部
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.2 教育課程・教育内容	
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ（学部） コースワークとリサーチワークのバランス（院）	
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供（学部） 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（院） 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供（専院） 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容（学部）	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 共通学士力に係る施策を推進する組織を設置する。	→新組織「共通教育センター（仮称）」の設置	A
2. 全学開講科目として提供している各種授業科目群を全学共通プログラムとして再編し、学内外に明示する。	→共通教育科目群の体系の明示	C
3. 全学共通プログラムに初年次教育科目群を新設する。	→初年次教育科目群の体系化	C
4. 共通教育、専門教育についてカリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップを提示し、学習の道標とする。	→カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップの作成	C
5. MDS、ジョイントディグリー制度の改善を図り、MDS修了者数及び二学位取得者数を増加させる。	→MDS修了者数を1.5倍、及び二学位取得者数を2倍にする。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

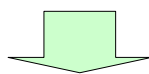
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.2.1	<p>(現状説明)</p> <p>現在、学位授与の方針、教育課程の編成・実施方針が明示されていないため、授業科目の適切な開設であるとか教育課程の体系的性といったことを検証するための基準がない。したがってそれらを明示することが先決である。方針を明示した上で、カリキュラム・ツリーやカリキュラム・マップを作成し明示する。カリキュラム・ツリーやマップは、学生にとっては履修計画を立てる際の道標となり、また大学にとっては教育課程の適切さを検証する資料となる。</p> <p>現在は2010年4月に開設した「共通教育センター」で、本学における学士として必要な能力等の定義について検討中である。また、センターでは現行の全学科目、学際・連携科目を再編し、さらに初年次教育科目を新たに加え、全学生に共通して必要な能力を育むための「全学共通教育プログラム」の設置を進めている。設置後は全学共通教育プログラムのカリキュラム・ツリー、およびマップを提示した後、各学部における学部提供カリキュラムのカリキュラム・ツリー、マップの作成、教育課程の体系的な編成を推進していく予定である。</p>
☆ 小項目6.2.2	<p>(現状説明)</p> <p>現状では、教育内容については学部の検討に任されているが、今後、学位授与の方針、教育課程の編成・実施方針が明示されていけば、教育内容の適切さについてそれらの方針に基づき検証していくことができるようになる。</p>
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.2.1	項目に関わる方策を強力に推進するため、2010年4月に共通教育センターを設置した。
★小項目6.2.2	
その他	



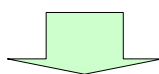
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.2.1	共通教育センターの機能を高度に維持し、まず教育課程全体の中で全学共通教育プログラムの科目配置や体系性を検討し、カリキュラム・ツリーとマップを提示する。
★小項目6.2.2	まず全学共通教育プログラムの科目内容が、プログラムの教育目標に照らしてふさわしいものであるかの検証を行う。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.2.1	教育課程全体の中で全学共通教育プログラムの役割に応じた体系性や科目配置を検討し、それをカリキュラム・ツリーやマップで提示する。
★小項目6.2.2	上記と並行して、全学共通教育プログラムの科目内容の適切性について検討する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○「現状説明」は明快で評価できます。「共通教育センター」の活動によって、「目標」2,3,4の改善が図られることが期待されます。

【学内委員】

○共通教育センターが設置されたことは評価されます。改善方策の中で記述されている方策が着実に実施されることが望まれます。

○「学位授与の方針、教育課程の編成・実施方針が明示されていないため、授業科目の適切な開設であるとか教育課程の体系性といったことを検証するための基準がない」というのはその通りです。学長府としてその明示に注力されるようお願いいたします。

○「共通教育センター」の今後の施策立案と実施に期待します。

○「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行」において、「教育課程に関する情報」の公表が義務化され、教育課程の体系性について明らかにすることが求められています。

○本項目は「6.1 教育目標・学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」と連動し重要な項目です。各目標の実現に期待します。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。

○MDS修了者及び二学位取得者については、制度の継続的な改善をはかった上で数が増加することが期待されます。

○改善方策は出来るだけ具体的であることが求められます。「検討する」だけでは曖昧です。より具体的な記述が望まれます。

○目標4は「MDS、ジョイントディグリー制度の改善を図り、MDS修了者数を1.5倍に、二学位取得者数を2倍にする」とし、指標は「MDS修了者数、二学位取得者数」が好ましいでしょう。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ◎改善すべき事項【次年度に向けた方策（2）】小項目6.2.2の記述を次のように変更する。
 ☆ 「上記と並行して、全学共通教育プログラムの科目内容の適切性について検討し、初年次教育に関する科目の設置を関係会議に提案する。」

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.2.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.2.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.2.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.2.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

<個別的な指標>
